コロナ下の「わかりやすい」情報提供

野澤和弘　プロフィール

１９５９年、静岡県熱海市出身。
１９８３年、早稲田大学法学部卒業
毎日新聞入社。津支局、中部報道部を経て東京社会部へ。
　いじめ、ひきこもり、生殖医療（代理母）、児童虐待、障害者虐待、厚生労働省担当。夕刊編集部長、論説委員（社説やコラムを担当）
２０１９年１０月退社
現在は、植草学園大学副学長（教授）
一般社団法人スローコミュニケーション代表
毎日新聞客員編集委員
ＷＥＢ医療プレミアで「令和の幸福論」を連載中
https://mainichi.jp/premier/health/

これからお話すること

（１）コロナ下のコミュニケーション

（２）知的障害者とは何か？

（３）情報保障における合理的配慮と意思決定支援

（４）多様性と行動障害～彼らは世界をどう見ているのか

コロナ下のコミュニケーション

- ZOOM、MEET、TEAMS……さまざまなオンラインの手段の普及と主流化
- 声と表情は画面越しに伝わるが、雰囲気や周囲の反応など、それ以外のコミュニケーションは伝わりにくい
- 微妙なニュアンスが伝わらないストレス、疲労、不全感
- 「言葉」の比重が高まることで、抽象的な思考やコミュニケーションの得意な人と不得手な人の格差が広がる
- ITが得意な人と不慣れな人の情報格差

メリットも

- 画面共有でビジュアルかつコンパクトなコミュニケーションが可能になる
- チャットを使えば、サブチャンネルでのやり取りがスムーズに
- 遠距離の相手ともコミュニケーション可能に
- １対多数のやり取りが可能に
- おしゃべり、雑談など不要な情報を遮断できる
- 録音録画ができる、オンデマンドでそれぞれ都合よい時に何度も聞くことができる
- アンケート、クイズも多数の人を相手に簡単にできる

コロナと知的障害者

- ＩＴ機器の操作が苦手な人は疎外されがち
- 言葉と表情以外の情報が削ぎ落される→抽象化される情報
- 「距離感」がもたらす安心感・不安感

  ……安心と信頼の土台があってコミュニケーション
- 知的障害者の表情や雰囲気が読み取りにくい→　伝える側からの細かい配慮がしにくくなる
- オンデマンドで何度も見ることができる

ソーシャル・ディスタンスが壊すもの

- 言葉と身体感覚
- 情報のやり取り　「情動」のやり取り
- アイコンタクト　→　握手　→　ほほを寄せる　→　ハグ

- １対１の会話　複数の意見交換
- 酒席のコミュニケーションの愉楽

- 「こすれ合う」ことの痛み・安心感・鬱陶しさ・快感

（２）知的障害とは何か？

- パラリンピックに障害者が出場しない理由
- アトランタ五輪（1996年）、長野冬季五輪（1998年）から知的障害者のクラスが設けられた
- シドニー大会のバスケット事件、金メダルのスペインの不正
- 国際オリンピック競技会はすべての知的障害者クラスを廃止
- ロンドン（2012年）から陸上・競泳・卓球だけ復活
- 知的障害の場合、障害の等級が競技能力に直接結びつかないという問題がある。筋力や走力や持久力などの身体的能力を競うスポーツでは、知的能力の軽重によるクラス分けをする意味がどこまであるのか

障害の定義

- 知的障害者福祉法　　定義なし

- 精神障害者福祉法　　統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害、精神病質その他の精神疾患

- 発達障害者支援法　　自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現する

- 障害者基本法（改正）　　身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む）その他の心身の機能の障害がある者であって、障害及び社会的障壁障害がある者にとって障壁となるような事物・制度・慣行・観念その他一切のもの）により継続的に日常生活、社会生活に相当な制限を受ける状態

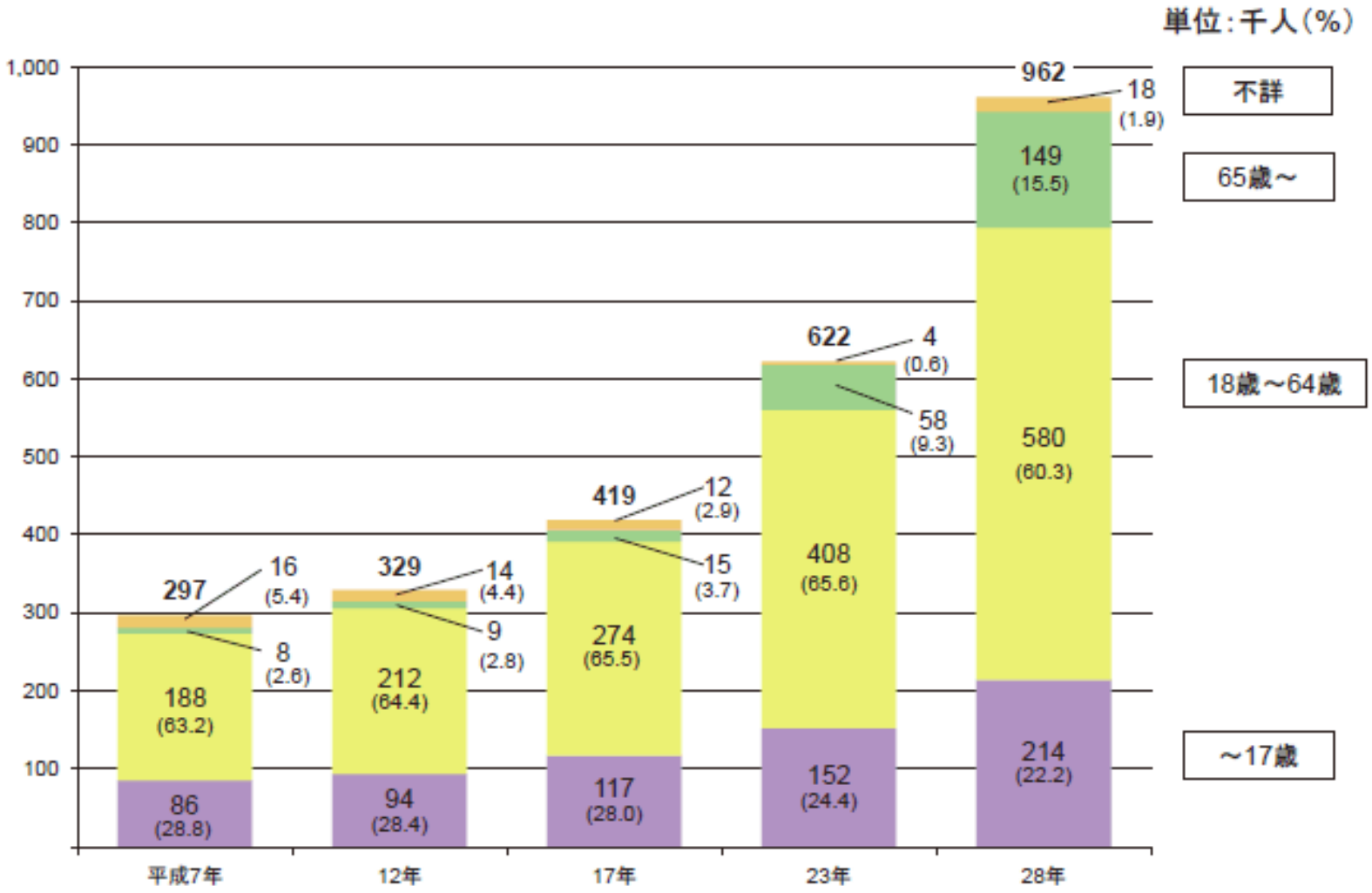
障害手帳

- 身体と精神は法律で手帳について定められている
- 知的障害は厚生事務次官の通知に基づいて、自治体が独自にそれぞれ定めている
- 色、形、認定基準がバラバラ
- 安室奈美恵さよならライブ（2018年）で、入場を拒否されたダウン症の女性
- 療育手帳は身分証明書にならない

知的障害者の数　（障害者白書）

54万人（平成25年）

108万人（平成30年）



「軽度」知的障害者

1950年代の定義は「IQ85未満」

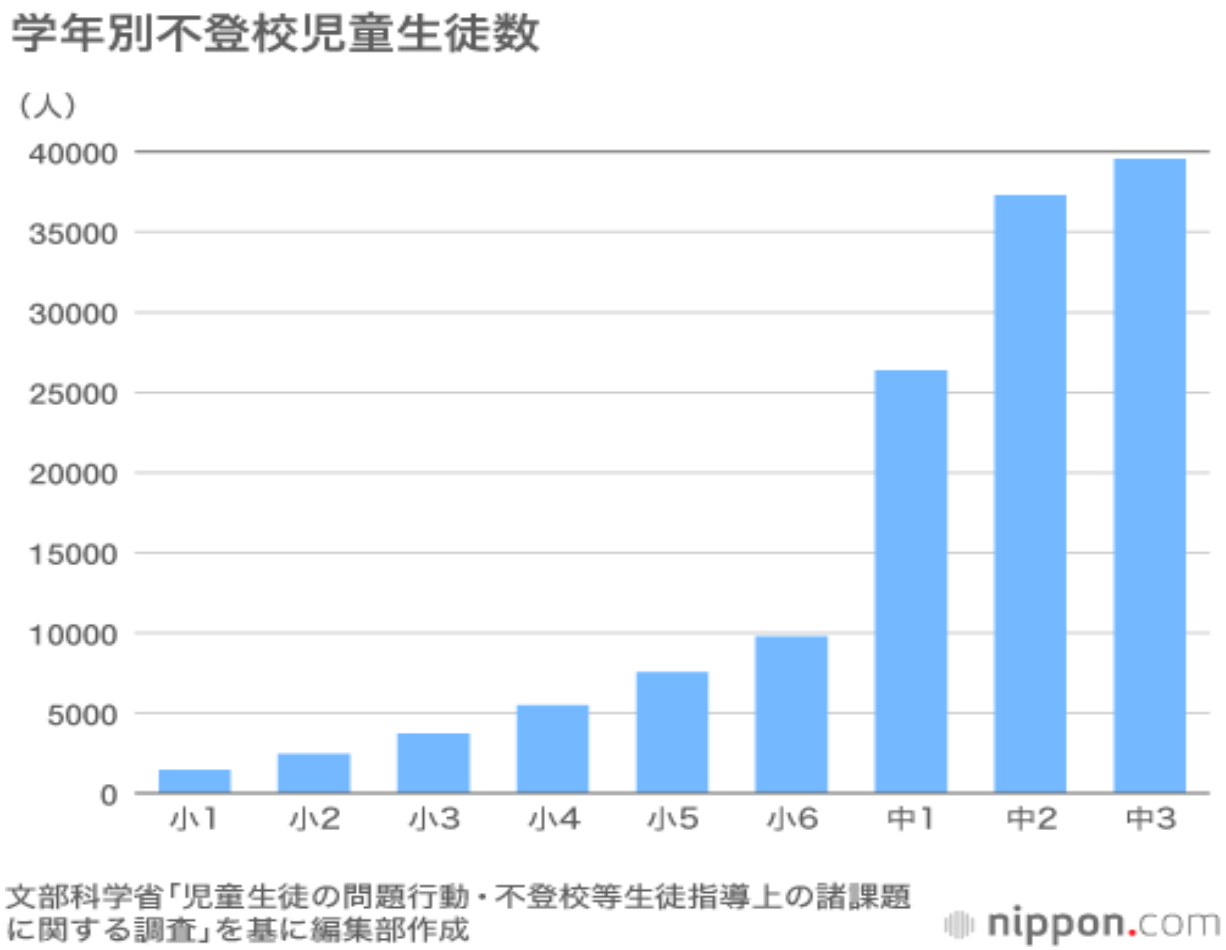
1970年代以降に「IQ70未満」となる。85未満とすると知的障害者は全体の16％にも上ってしまい、支援現場が対応できないという事情から引き下げられた。

※70～85は「境界値」とされている。

しかし、現在でもIQ70～85は実態として存在する。小学校35人クラスに5人は境界値の人（軽度知的障害者）

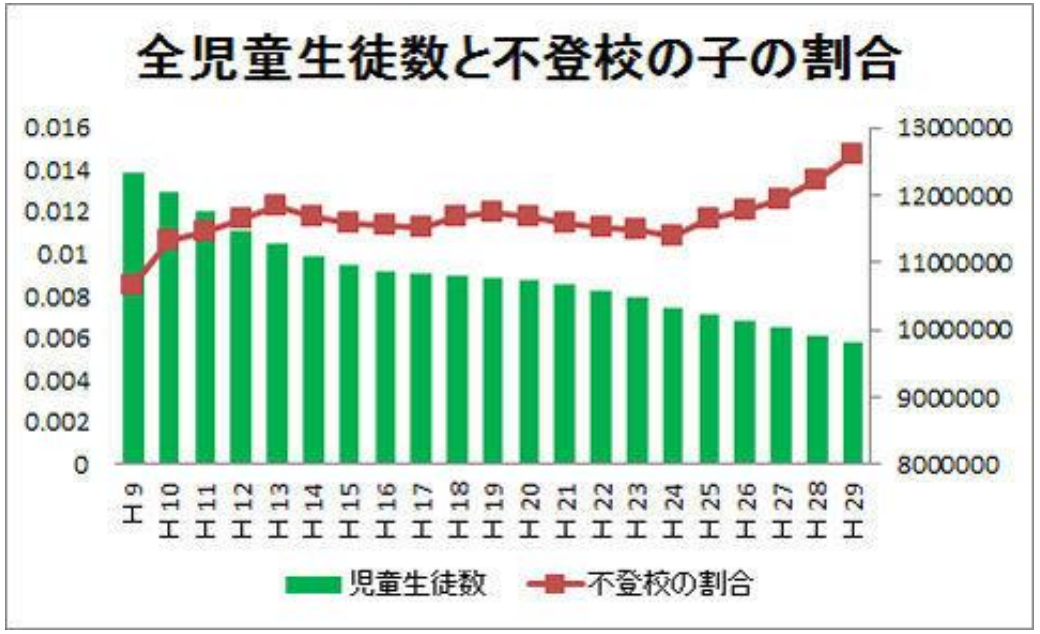
国際的にも定義は揺れ動いている。DSM（アメリカ精神医学会の診断基準）からIQ値が削除。IQは高いが社会適応が困難な発達障害をどう扱うか？

「中一ギャップ」とは？

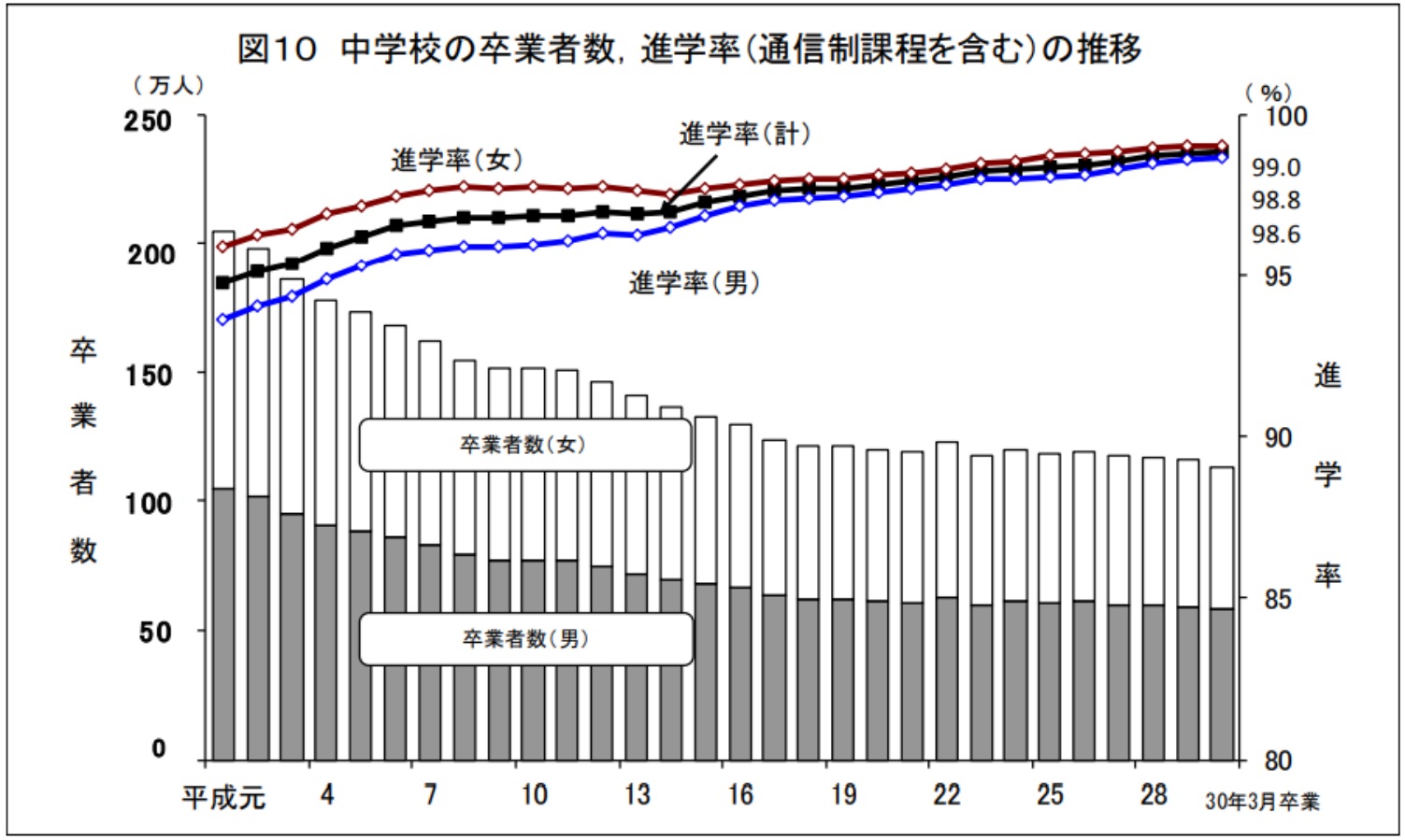

学年別不登校児童生徒数
（人）
40000
35000
30000
25000
20000
15000
10000
5000
0
小1
小2
小3
小4
小5
小6
中1
中2
中3
文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に編集部作成
nippon.com

中１ギャップと不登校

- 小学校高学年から学習内容が難しくなってくる。
- 中学校になると授業についていけない生徒が増える。
- サブシステム…部活、先輩・後輩の関係、異性への関心など社会性が必要な状況が多くなる。
- 支援が必要な子ども（軽度知的障害）は学習にも学校内外の状況にも自分で対応することが難しくなる。



にもかかわらず、高校進学率は99%



底辺校の実情

- 1年時に160人入学
- 2年生になると80人
- ３年生になると40人
- 卒業後に就職するのは20人弱
- 3年未満にほとんどが離職

- 消えた子どもたちはどこへ……

学校からいなくなった子どもたち

【～60年代　高度成長まで】

金の卵…工場での単純労働、旅館や商店・自営業の手伝い

【現代】

コンビニ、アマゾン、大規模店舗　ネット販売…社会システムが高度・複雑化するにつれて、単純労働がなくなる。低学歴・軽度知的障害の人々の「居場所」がなくなる。

暴力団、風俗、刑務所、ひきこもり

（３）合理的配慮と意思決定支援

- 社会の側に障害者の参加を阻害するバリアーがある（社会モデル）

→　合理的配慮によってバリアーを取り除くことを義務に

- 教育、福祉、労働、公共交通、不動産…あらゆる分野が対象

＜情報保障の合理的配慮＞

×難しい説明書が理解できないのは本人の努力不足、障害者の能力不足

〇知的障害があっても理解できるようにわかりやすい説明書にしなければならない

知的障害の人には？

- ひらがなを使う
- 漢字にルビを付ける

- わかりやすい文章にする
- 絵やイラスト、写真を使う
- ゆっくり話す、時間をかけて理解するのを待つ
- 安心や信頼を得られるよう配慮する

SLOW

スロー
コミュニ
ケーション

わかりやすい文章
わかちあう文化

本指針において定める措置については、「望まれます」と記載されている内容等法的義務ではないものも含まれますが、法の目的を踏まえ具体的場面や状況に応じて

障害者差別解消法の
福祉事業者向けガイドライン

（厚生労働省）

動規範をもって障害を理由とする差別を解消するための取組を進めていくことが期待されます。

「ステージ」　知的障害者のための新聞

- 読者層は大人の知的障害者、働いている人が多い
- 政治、経済、環境、科学、恋愛や性にも興味がある
- 小学校３年生レベルの学力で理解できるように
- 子ども扱いはしないで！

＜背景＞

90年代後半、社会福祉基礎構造改革

措置→契約　介護保険、支援費制度～自立支援法

自己選択・自己決定

選ぶために必要なこと・・・情報、体験、判断能力、交渉能力

スウェーデンなど北欧の本人主義と情報保障

ステージの編集

- 編集委員
  ①知的障害の本人　②福祉職員・育成会職員
  ③新聞記者

- 季刊発行（年４回）

- 企画会議→原稿発注、取材→読みあわせ→書き直し

１面	企画
２～３面	ニュース
４～５面	スポーツと文化
６～７面	障害者や福祉

基本ルール

- 文章はできるだけ短く
- 複合文はやめよう、シンプルな構成に
- 難しい漢字は使わない
- ひらがなだけもダメ
- 二重否定はやめよう
- 比喩もやめよう
- 抽象的なことば、専門用語はダメ
- 省略も難しい。丁寧に

長い文・複合文

　本件各文書は原告が本件条例に基づき開示請求しているものであり、本件一部非開示決定については争訟が提起されることが予想されたのであるから……本件においては、右にみたとおり、本件各文書は既に廃棄されて現存しておらず、したがって、仮に本件訴訟において本件各一部非開示が取り消されたとしても被告らが本件各文書を開示することは不可能であるから、原告において本件各一部非開示の取り消しを求める法律上の利益はないといわざるを得ない。

（情報開示訴訟の判決文）

専門用語・難解な言葉

デフレ脱却のため規制緩和で成長戦略を図るのが安倍政権のアジェンダである。

わかりやすく書き換えると

デフレ脱却のため規制緩和で成長戦略を図るのが安倍政権のアジェンダである。

経済がどんどん縮んで元気がなくなる「デフレ」。それを解決するため、企業にもっと自由な活動をさせてお金もうけしやすくすることが、安倍政権の課題だ。

二重否定

もう恋なんてしないなんて言わないよ絶対

もう恋なんてしないなんて言わないよ絶対

もう恋をしない　×　とは言わない　＝　する？

なんて　×　なんて　×　絶対　＝　？

失恋すると「もう恋なんてしない」と思ってきたけれど、もうそんな自分からは卒業だ！

もう恋なんて、しないなんて、言わないよ、絶対

二重否定　⇒　間接話法　⇒　high　context

- 本当に主張したいことはあるが、わざと否定したり貶めたりしながら遠回しに言う
- あからさまに表現すると反発されるので、遠回しに言う
- 恥ずかしいので、何度も否定しながら本当の気持ちを伝える
- 言いたいことをあからさまに言うのは下品と思われる

比喩

まだ青い奴らの黄色い歓声を浴びていると、玉虫色の結論ではいけないと思えてきた。やっぱり白黒はっきりさせようじゃないか。

・青い　　……若い、未熟
・黄色い歓声　　……かん高い声
・玉虫色　……いろいろな色に見える、どのようにも解釈できる
・白黒　　……良いか悪いか、強いか弱いか、はっきりさせる

省略

甘く入ったスライダーを大谷が右へ運んだ。

- 何が甘く入ったのか　ピッチャーが投げたボール
- 甘いとはなにか　バッターにとって打ちやすいコース（比喩）
- スライダーとは　ピッチャーが投げる変化球のひとつ
- 大谷は何を運んだのか　ボール（「運ぶ」は比喩）
- 右へ運ぶとは　右翼（ライト）へホームランを打つ

コミュニケーションの土台

- コミュニケーションの土台は「共通認識」
- 共通認識がある関係性では「省略」が多くなる
- 「共通認識」は均質・緊密な関係の中でしか通用しない
- 多様性のある社会に必要な配慮を考える

共通認識

スポーツがすきな人は、わざわざ言わなくてもわかること（ボール）は省略する方がスムーズに速く情報伝達ができる

習慣的に新聞やテレビでニュースを見る人には、そのニュースの前提や背景をわざわざ説明しなくてもわかる（と思っている）

同じ時代に・同じ国で・同じ内容の公教育を受けてきた私たちには、無意識のうちに「共通認識」が植えつけられている

共通認識は集団的な先入観につながる

世にあふれる難しい文章

- 新聞記事、法律、判決文、政治家や官僚の国会答弁
- 取り扱説明書、医薬品の使用上の注意、保険約款
- 看護師・介護福祉士試験の問題、運転免許試験の問題

＜わかりにくさの本質＞＝専門性・難解さの鎧

- よくわからずに書いている
- どうせわからないだろうとバカにしている
- 本当は知られたくないことがある
- 相手のことを知らない、知ろうともしない
- 排除したい（仲間内だけで通じるコミュニケーション）

（３）多様性と行動障害
～彼らは世界をどう見ているのか

- 壊す、暴れる、叫ぶ、動き回る、執着する
- どうしていいかわからず、行動を力で抑制
- 家族や福祉スタッフのストレス
- 閉鎖的な入所施設、精神病院への隔離収容
- 身体拘束→　さらなる行動障害をつくる
- やっかい者扱い、差別・偏見、排除
- 虐待へとエスカレート

水戸アカス事件　1996年

・約30人の知的障害者が働く段ボール加工工場
・体罰（殴る、蹴る、食事を与えない）
・従業員寮で社長による性的暴行
・詐欺罪（補助金不正受給）で社長逮捕、有罪
・性虐待は約20件告訴されたが、いずれも不起訴
・民事訴訟では性暴力を認定

96 12/23 毎日

虐待が行われていたHアカス紙器の寮。手前は、以前工場が建っていた空き地

積極雇用◎陰で暴力

水戸市の「優良企業」

福祉を食う

——虐待される障害者 ◇1◇

訴えに救いの手なく

平和で豊かな日本には、冷酷なもう二つの顔がある。茨城県の段ボール加工会社は、多数の知的障害者を働き、「暴行を繰り返し」といわれながら、実際は県の「優良企業」として表彰され、障害者への暴力を禁じた法律が、ほとんど無視されている。社会から見捨てられ、職場で孤立され、助けを求めても無視される——。こうした障害者への暴行は氾濫でき、死をも招いている。「もう一つの日本」の実態を報告する。

「いくら殴って寮中を回っても、ボンドの匂いが取れない。ボンドを吸ったら、ベッドにぶつかって血が出たんです。頭が痛い、痛いと言いながら、寝ていた。怖くて、怖くて、と言っていた。」

水戸市の段ボール加工会社「アカス紙器」（現「水戸パッケージ」）を訴えた知的障害者の女性（32）が昨日、水戸地裁で、暴行を受けたと訴えた。

「アカス紙器」は、1970年ごろに設立され、90年代末から知的障害者を積極的に雇用し、障害者の就労と自立の支援を行う社会福祉事業の優良企業として表彰されたこともある。

1970年ごろに設立され、90年代末から知的障害者を積極的に雇用し、障害者の就労と自立の支援を行う社会福祉事業の優良企業として表彰されたこともある。

警察も福祉事務所も職安も

「愚痴かと…」

原告は、「知的障害者の労働者を使う会社は、多数の知的障害者を働き、『暴行を繰り返し』といわれながら、実際は県の『優良企業』として表彰され、障害者への暴力を禁じた法律が、ほとんど無視されている。社会から見捨てられ、職場で孤立され、助けを求めても無視される——。こうした障害者への暴行は氾濫でき、死をも招いている。『もう一つの日本』の実態を報告する。

「いくら殴って寮中を回っても、ボンドの匂いが取れない。頭が痛い、痛いと言いながら、寝ていた。怖くて、怖くて、と言っていた。」

水戸市の段ボール加工会社「アカス紙器」（現「水戸パッケージ」）を訴えた知的障害者の女性（32）が昨日、水戸地裁で、暴行を受けたと訴えた。

「アカス紙器」は、1970年ごろに設立され、90年代末から知的障害者を積極的に雇用し、障害者の就労と自立の支援を行う社会福祉事業の優良企業として表彰されたこともある。

原告は、「知的障害者の労働者を使う会社は、多数の知的障害者を働き、『暴行を繰り返し』といわれながら、実際は県の『優良企業』として表彰され、障害者への暴力を禁じた法律が、ほとんど無視されている。社会から見捨てられ、職場で孤立され、助けを求めても無視される——。こうした障害者への暴行は氾濫でき、死をも招いている。『もう一つの日本』の実態を報告する。

「いくら殴って寮中を回っても、ボンドの匂いが取れない。頭が痛い、痛いと言いながら、寝ていた。怖くて、怖くて、と言っていた。」

水戸市の段ボール加工会社「アカス紙器」（現「水戸パッケージ」）を訴えた知的障害者の女性（32）が昨日、水戸地裁で、暴行を受けたと訴えた。

「アカス紙器」は、1970年ごろに設立され、90年代末から知的障害者を積極的に雇用し、障害者の就労と自立の支援を行う社会福祉事業の優良企業として表彰されたこともある。

原告は、「知的障害者の労働者を使う会社は、多数の知的障害者を働き、『暴行を繰り返し』といわれながら、実際は県の『優良企業』として表彰され、障害者への暴力を禁じた法律が、ほとんど無視されている。社会から見捨てられ、職場で孤立され、助けを求めても無視される——。こうした障害者への暴行は氾濫でき、死をも招いている。『もう一つの日本』の実態を報告する。

被害の立証は可能

「話すことない」

社長、取材拒否

父親が病死したため、自立を目的として社長に就職した女性（44）もその一人。この女性は同社から紙パックを買い、水戸駅前の寮に住まわされていた。

この女性は同社に紹介した大学の知的障害者職業指導員に、女性が4回殴られ、ボンドの匂いが取れない、と訴えていたが、「仕事の邪魔だから殴ってもいい」と言われたと証言する。

担当の指導員は「暴行を繰り返していたことは知っていた」と訴える。

暴行を目撃していた寮の職員は、「暴行を繰り返していた」と証言する。

原告は、「知的障害者の労働者を使う会社は、多数の知的障害者を働き、『暴行を繰り返し』といわれながら、実際は県の『優良企業』として表彰され、障害者への暴力を禁じた法律が、ほとんど無視されている。社会から見捨てられ、職場で孤立され、助けを求めても無視される——。こうした障害者への暴行は氾濫でき、死をも招いている。『もう一つの日本』の実態を報告する。

「いくら殴って寮中を回っても、ボンドの匂いが取れない。頭が痛い、痛いと言いながら、寝ていた。怖くて、怖くて、と言っていた。」

水戸市の段ボール加工会社「アカス紙器」（現「水戸パッケージ」）を訴えた知的障害者の女性（32）が昨日、水戸地裁で、暴行を受けたと訴えた。

「アカス紙器」は、1970年ごろに設立され、90年代末から知的障害者を積極的に雇用し、障害者の就労と自立の支援を行う社会福祉事業の優良企業として表彰されたこともある。

原告は、「知的障害者の労働者を使う会社は、多数の知的障害者を働き、『暴行を繰り返し』といわれながら、実際は県の『優良企業』として表彰され、障害者への暴力を禁じた法律が、ほとんど無視されている。社会から見捨てられ、職場で孤立され、助けを求めても無視される——。こうした障害者への暴行は氾濫でき、死をも招いている。『もう一つの日本』の実態を報告する。

福祉施設における虐待

白河育成園事件　1997年

・80年代半ばに建てられた、知的障害者の「都外施設」
・定員30人のうち27人が東京の障害者
・体罰、向精神薬・睡眠薬の過剰使用
・虐待が発覚し、施設閉鎖へ
・わが子を守れない保護者の心情

「私も体罰加えた」

白河育成園職員

耐え切れず…告白

親元に日誌送り「園生に謝罪したい」

福祉を食う

虐待される障害者

「行動障害」を理解する

・行動障害を引き起こす刺激（ひきがね）が何かある
・言葉で伝えられない、本人も自覚ないのでわかりにくい
・光、集団のストレス、特定の人、臭い、チクチクした感触…
・応用行動分析

・昼間はとても穏やかなのに、夜になると時々、大暴れする人
・「わけのわからないことで暴れるやっかいな障害者」
・では、どうして昼間はこんなにおだやかなのか…
・仮説を立てて、ひきがねを探す

・なかなか観察してもわからないことがある
・記憶や過去の体験は外見を観察してもわからない
・ふだんから障害者にストレスになっているものを取り除く
・もっともストレスをもたらしているのは何か？

・彼らは世界をどう見ているのか？

知的・発達障害の世界を理解するために

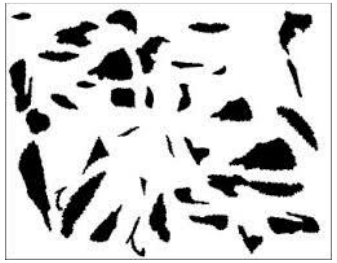
頭をやわらかくするテスト

名前を正方形の中に書きなさい

（1） イチゴの絵をかきなさい

（2）次の文章を読みやすく書きなおしなさい

（3）下の絵の題名を書きなさい



答え

（4）「もう恋なんてしないなんて言わないよ絶対」。この人は何をしたいのか書きなさい。

（5）次の文を、漢字や句読点を交えてわかりやすく書き直しなさい

あめがいたいくらいふるいちじわたしはかなしくなった

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

イチゴの絵をかきなさい

自閉症の認知特性

- 相手の気持ちを読むことが苦手
- 感覚過敏
- 常同・反復行動

- 時間の流れ・変化への不安
- 求心性統合（全体をまとめて理解する力）が弱い

→　細部・一部への強い関心とこだわり

求心性統合

- さまざまな社会の出来事を関連づけ、全体を把握して調整する能力
- その場の空気を読み、流れをつかんで対応できるコミュニケーション能力
- 学校や社内の人間関係への対処、中間管理職に求められる調整能力。How to への素早い回答。

不確実な時代、根底から常識を覆し、新しいものを創造する能力、先入観や同調圧力による錯視から解放され真実を見抜く能力とは、むしろ求心性統合の弱さが求められる。

- エジソン、アインシュタイン、スピルバーグ……天才にはしばしば発達障害がある。

世の中がわかりにくいのは

- 知的障害者の能力の問題ではない、努力が足りないのでもない。
- 社会の側が多数派の都合に合わせてコミュニケーションや制度を作ってきた。
- 経済的繁栄や科学の進歩を優先して、社会をつくってきた。
- それに付いてこられない人、なじめない人は容赦なくはじき出された。
- 世界は無限の多様性に満ちているのに、言葉（＝論理）で切り取られたものが優位に、そうでないものは切り捨てられてきた。
- 知的障害者の「沈黙」「微笑み」を理解する。知性、謙虚さ、想像力、芸術性が求められる。